

平成27年度第2回別府市総合教育会議議事録

1 日 時 平成28年3月30日
開会 午後1時30分 閉会 午後2時30分

2 場 所 別府市役所1階 レセプションホール

3 出席者

(構成員) 別府市長 長野 恭紘
〈教育委員会〉
教育長 寺岡 悌二
教育委員 福島 知克 (委員長職務代理者)
教育委員 明石 光伸
教育委員 高橋 護
教育委員 小野 和枝

(事務局) 総務部長 豊永 健司
総務部総務課長 月輪 利生
総務部総務課参事 本田 壽徳
総務部総務課主事 首藤 正之
教育参事 湊 博秋
教育次長兼教育総務課長 重岡 秀徳
教育総務課課長補佐 三宅 達也
教育総務課主幹 志賀 貴代美

4 議 題

- (1) 別府市教育大綱策定について
○別府市教育大綱 (案) について
- (2) その他

5 議事の経過

○本田総務課参事

定刻になりましたので、これより平成27年度第2回別府市総合教育会議を開会させていただきます。よろしくお願いいたします。最初に長野市長にご挨拶をお願い申し上げます。

○長野市長

皆様こんにちは。今日は皆様大変お忙しい中にも関わらず、総合教育会議にご出席いただきまして、心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。ご案内のとおり法律の改正ということでございまして、昨年8月に第1回の総合教育会議を開催させていただきました。その際にも申し上げましたとおり、昨年の10月に別府市のこれから先の当面5年間の方向性を決める地方創生の総合戦略が決定されました。べっぷ未来共創戦略というものでございます。それに沿って、私どもも今動き出しているところでございます。丁度、別府市の最上位計画でもあります、総合計画の後期の5年間の基本計画の策定期間でもございました。先の議会におきましては、議員の皆様方にもこの後期の総合計画の5年間の報告させていただいたということで、総合戦略の5年間と総合計画の後期の5年間が丁度一緒の時期にあたりますので、この2つの計画と教育大綱のすり合わせをした上で、子どもたちの将来に向かってしっかりと教育のまち別府としての在り方を探って参りたいということで、今日は第2回目の総合教育会議が開催されたものと思います。しっかりと私も今後の子どもたちのために、ライフワークとして子どもたちの教育について取り組んで参りたいと思います。皆様方の知見を活かしていただきまして、より良い方向性を見出せるように皆様方と一緒に頑張りたいと思います。引き続きまして、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○本田総務課参事

では、これより議事に入ります。

別府市総合教育会議運営要綱第3条に、市長は議長として会議の議事進行を行うものとする規定されていますので、以降は、市長を議長として議事を進めていただきます。市長よろしくお願いいたします。

○長野市長

ただいまから私の方で議事を進めさせていただきたいと思います。

別府市総合教育会議運営要綱第6条第2項に規定されていますので、今回の議事録署名は寺岡教育長にお願いしたいと思います。

それでは、議題1別府市教育大綱（案）について事務局から説明をお願いします。

○月輪総務課長

総務課長の月輪です。よろしくお願いいたします。

まず、説明する前に、本日配布しております資料の確認をさせていただきます。平成27年度第2回別府市総合教育会議と書かれたレジュメ、次に別府市教育大綱(案)、資料1として別府市総合教育会議運営要綱、資料2として別府市総合計画の計画体系図、資料3として「まちをまもり、まちをつくる。べっぷ未来共創戦略」の全体像、資料4として平成27年度別府市教育行政基本方針となっております。

皆様、資料はございますでしょうか。初めにレジュメの2ページをご覧ください。こちらに議題1として別府市教育大綱策定について、を掲載しております。この部分につきましては、第1回総合教育会議で皆様と確認していただいた事項を掲載しておりますので、もう一度、ご一読いただきたいと思います。

それでは教育大綱(案)の説明をさせていただきます。

(別府市教育大綱(案)の内容を読み上げて説明する。)

以上で、別府市教育大綱(案)の説明を終わります。

○長野市長

質疑等がございましたら、よろしくお願い申し上げます。

○福島教育長職務代理者

5ページ目の基本方向2の○の二つ目の文章は、フレーズの並び替えによって意味がかなり違ってきますから、「学力調査の結果分析による指導法の工夫改善をして、教職員研修の充実による教職員の資質向上に基づいて学力の向上を図ります。」にしなければ、先生たちが資質向上しても学力の向上に行き着かなくなりますから、そういう風に変えた方がよろしいのではないかという提案であります。

○重岡教育次長兼教育総務課長

ご指摘いただいた点につきましては、現在のこの文章につきましては、横並びというか、資質向上と指導法の工夫改善、基礎学力の向上を3つ並べている表記の仕方になっておりますので、ご指摘いただいた形で行った方が確かにおっしゃるとおりだと思いますので、事務局としてはその方向で変えていくのがよろしいかと思っております。

○福島教育長職務代理者

基礎学力と書いていますけれども、基礎はいらぬのではないですか。学力の向上だけでよろしいのではないのでしょうか。

○重岡教育次長兼教育総務課長

おっしゃるとおりでございます。基礎学力も含めて全ての学力と言う捉えの方が望ましいと思います。

○長野市長

基礎学力が不足している子どもたちに対しては、当然、基礎学力の定着というのはあるでしょうけれども、臨機応変な応用力みたいなものも、これからやはり子どもたちには身に付けてもらいたいという意味を含めるものであります。特に反対がなければ、訂正をお願いします。

○明石教育委員

「地域の子どもは地域が育てる」というのはそのとおりで素晴らしいことなのですが、これは今までもずっと言われていることで、では具体的にどうするのかと言うことなのですけれども、やはり地域で育てるのは大人達だから、まずは、地域の大人達でコミュニケーションをしないと、子どもたちを地域で育てるというのは上手くいかないのではないかなと思います。

僕が小さい頃は、子ども会というのがものすごく活発で、それによってお兄ちゃん、あるいは近所の人たちとのコミュニケーションの場がありましたけれども、子ども会自体がもうなくなってきていますから、例えば子ども会の再構築などが必要ではないのかなと思います。本当に地域の教育力を上げるには何か手を打たないと。子ども会がどんどんなくなるということは、地域の教育力が落ちてきているのかなと思ったりしています。

もう一つは、今別府市は高齢者が非常に増えてきていますから、高齢者の老人力というか、ああいう人たちの出番を待っているのですよね。ああいう人たちを上手く活用して、他団体とのコミュニケーションというか、連携プレイをしながらやっていくというのが良いと思うのですけれども。

○寺岡教育長

明石委員がおっしゃいました地域の希薄、人間関係の希薄については、子ども会の充実と言われているのですけれども、お世話をする方が、例えば子育てに関わっていると、か、共稼ぎしているとか色々な理由から、子ども会に入れられないような状況というのは聞いております。退職された方が地域の子ども会のお世話をすると、か、社会体系の変化と申しますか、そういう風な移行も大事なのかなと明石委員のお話を聞きながら思いました。大人の子どもの育成に対する責任とか役割の希薄さもあるのかもしれませんが、そこは見直さなければいけないと感じました。

○高橋教育委員

只今、明石委員さん、寺岡教育長さんがおっしゃったお話と関連するのですが、今回非常に別府学というのが一つの核になっているような感じがします。それに合わせてですね、冊子、DVDを作成するということですが、子どもたちにそれを見てもらう、確かに効果があることだと思いますが、では現場の先生はそういう時間に対して何をすべきか、別府学についてまさに教える先生はいないわけですから、そういう所で先程明石委員さんがお話いただいたような地域にいらっしゃるご高齢の方、地域で

長く生活してらっしゃる方々、昔の街はこうだったとかそういうような所でも交流と
いいますか、繋がりといえますか、これも別府学にできるのではと思います。だから
現場の先生、学校の先生にお願いするだけじゃなくて、そういう時間でどんどん地域
の方々が学校に入っただけのような、そういう学習時間のあり方というのもこれ
から大切になっていくべきだという思いであります。

○長野市長

私から説明をさせていただきます。

今議会で別府学の関連予算が可決をされました。それは主にDVDと冊子、いわゆ
る教材的なものを作りましょうという予算だったのです。というのは、新年度予算で
と思ったのですが、今年度中の地方創生の加速化交付金にのるので、どうせ作
るのであれば急いで出そうということで、国に出しました。残念ながら今回は採択さ
れませんでした。敗者復活戦みたいなところもあるので、平成28年度の中で今予算
をとるように準備をしています。地方創生の加速化交付金にのらなくても、これは単
費でも絶対にやるというものですけれども、教育委員会と市長部局とで話しているの
は、とにかく別府学はDVDを見せたり、冊子を見せたりするものだけではなくて、
当然、今、高橋教育委員が言われたように、9年間の中で子どもたちにどういう風な
別府学、いわゆる地域を愛するための別府学をどうしていくのかということを経
済的にまずは絵を描いて、その中でDVDや冊子がどのような役割を果たすのか、また、
別府は今、地域活動が活発でまちづくり団体の方々もとっても元気ですので、そう
いった方々にも授業の中に入ってきていただいて、子どもたちにも現場を見てもら
ったり、体験してもらったりということを経済的にやっていくのが別府学だとい
う考え方で私自身はおりますし、今、教育委員会ともすり合わせでそういう風な
ことをやっております。具体的にどういうことかというのは、また教育委員の
皆様方にもご相談をさせていただきます、決定していくものと思っております。

教育大綱は教育の大枠の方向性をしっかりと示すものなので、明石教育委員が言
われたように、例えば子ども会の再構築というのは、KPIという具体的な指標、
目標を掲げてやらないと、今までと同じになる可能性が非常に強いと思
います。子ども会では、5年後に何個増やすのかという具体的な目標を
アクションプランで定める必要があります。ですが、これは大綱ですので。

これから先、具体的な内容に入ったときにどれくらいの目標を掲げてやるのかとい
う所までやらないと、今までと同じになる可能性があると思いますので、
そういったところも皆様方と相談をしながらやらなければいけないのでは
と思っています。

○小野教育委員

教育大綱5ページ目の安心して子育てができる教育環境の整備ですけれども、幼
稚園が預かり保育をしてくださるということで2園あるのですが、やはり今働
くお母さん達が増えていますので、もう少し具体的にといいますか、どうい
う風になるというのを示していただかないと、やはり働いていて帰ってき
ても、食の方とかで心配なこ

ともありますし、携帯電話などについても危険なこともありますから、そこら辺もしっかり対応して、安心して子育てができるという意味で進めていってほしいと思います。

○長野市長

それは、教育委員会からどうぞ。

○重岡教育次長兼教育総務課長

先程、市長の方からもありましたように、大綱の位置づけと具体的な個別の取組みの位置づけについては、教育委員会の方で整理させていただきながら、これは大綱でございますので、預かり保育を実施するという位置づけでご確認いただければと思います。今、小野教育委員からご指摘いただきました内容につきましては、教育委員会の各担当課の方で提案もあるでしょうし、また、先程の資料の方にもありました、毎年度作成します教育行政基本方針の中にも、そういうものも盛り込んでいきたいと思っています。

具体的なものについては、また委員の皆様方にもご意見をいただきながら位置づけていきたいと考えております。

○長野市長

その他皆様から何かありますか。

○寺岡教育長

教育大綱4ページの基本方針1の国際観光温泉文化都市別府の未来を創る人材の育成のための「別府学」の推進という、長野市長をはじめ教育委員会も目指している別府学のこの国際的、観光的、また温泉文化、そういういわゆるポテンシャルの可能性の高い別府の未来を創る人材の育成といったときに、例えば、別府の歴史を見直すと、別府という街はいろんな人を受け入れてきた。過去たくさんの人を受け入れて成り立っている。もちろん地元の方もおられる。そういうことを考えますと、その一人として、油屋熊八さんが観光の層を作って街に賑わいをもたらしたのですけれども、油屋熊八さんの業績の目に見えない部分をどう子ども達に、先生達に伝えるのか、何故、熊八さんがそういうようなことをやったのかという背景とか、そういう所を子どもたちに調査研究させて考えさせ、将来別府という街はこういう風になるべきだとか、子ども達なりに回答を出させていくなど別府学というのは本当に幅広いものです。

当面は歴史文化を徹底的に磨いていきながら資料を作っていくのですけれども、それを元に本当に幅広く広がるものだなと個人的には思っていますので、この教育方針の1については、本当に理念から教育哲学みたいなものまで、様々なものを管理している内容だなとこれは感想です。こういうのをもっといろんな学校関係者とかに徹底して、理解してもらい、一緒に協働して進めなければならないのかなと思っています。

○長野市長

私自身も地方創生の総合戦略を作るときに常々言ってきたのですが、地方創生は何が一番目的かという、人口減少を防ぐというのがはっきりと謳われている中で、じゃあそれをどういう風にやったら人口減少を食い止められますか、というのが総合戦略なのですね。ですから、総合戦略はそもそも人口減少を防ぐための施策なのです。ですが、今のままだと結局仕事がない、地元には何もいいものがない、どんどん大都市にばかり行くという、まずはこの考え方というか、地元には素晴らしいものがある、自分たちのふるさとが素晴らしいということ、まずは子ども達に認識をしてもらわなければ、人口がどんどん流出をしていくという以前に、例えば、仕事が都会と別府にあったときに、じゃあ別府に残ろうという選択肢にはなかなかないと、私も学生達を見て思うのですよ。

地方創生のゴールは、やはり子ども達がふるさとに本当に愛着を持って、いつか別府に恩返しをしようとか、一回出ても必ず別府に帰って来ようと思ってもらえる気持ちを育てることなのだろうと思いますし、そういう意味で総合戦略を作ったつもりなのです。ですから、別府学もその部分をしっかりと子ども達に教えられるようなものになるといいなというのが私自身考えていることであります。だから、本当に幅広いですよ。

その他よろしいでしょうか。

○福島教育長職務代理者

別府学についてですけれども、学問として子ども達にそれを教えたからといってこの地域に残るかという、なかなかないと思うのです。やはり学力が向上さえすれば、日本中どこでも働けるというのが教育の1番の理念でございますよね。別府はこんなところで、別府はこんなにいいところだということを教えるのであれば、別府に残ってくれる人、別府で起業をしてくれる人、そういう人たちに繋がっていくと思いますから、そういうことも長野市長は指導していただきながら、また、我々は我々で形にしながらやっていきたいと思っております。いい連携をよろしくお願いします。

○長野市長

もちろん、基本的には基礎学力であったり応用力であったりというものを上げていくというのがベースにあった上での私の話ですので、それさえ教育すればということではなくて、それをやりながら、その上に乗っかってくるもののご理解をいただければと思いますし、別府学の中で私が今考えているのは、本当に地域のことを知ること、例えば、別府には3つの国際大学があって、特にAPUは、私なんか居ながらにして留学できる場所だと、駅前留学どころかAPUの中に入ってしまえば、そのまま外国ですので、APUからも色々な提案をいただいている、是非、毎日でもいいから来たい人は来てもらっていいし、例えば休みの間でも1ヵ月に1回でも来てもらって、そういう留学を海外に行かなくても経験させてあげられるということで、色々なことが別府ではできますし、それも含めた別府学なのかなと思っています。教育委

員さんの意見をいただいた上で、別府学は体系的にしっかりと固めていきたいなと思っています。

それでは、先程出た意見は、福島教育長職務代理者から出た文言の訂正と、後は大綱ですので、具体的な目標数値を明記したものというのは個別に別途用意するという事で、次回の総合教育会議のときには、具体的なものとしてはこういうものがありますというものをお示しができるように、すり合わせをしておきたいと思います。

ということで、貴重なご意見をいただきましたので、これは再度事務局で検討して、次回説明ということでお願いを申し上げたいと思います。策定自体はここで策定をするということによろしいですか。

○出席者一同

よろしいです。

○重岡教育次長兼教育総務課長

先程もご意見いただきましたように、個別の具体的なものは教育行政基本方針等々の中で教育委員さんのご意見をいただきながら取り組んでいこうと思います。

今日の時点で大綱そのものは、ここでご承認いただけると、先程ご指摘いただいた具体的な事項についても今後動きがとれるものと思いますので、この辺の確認をしていただけると大変ありがたいと思います。

○長野市長

今、教育総務課長が言ったとおりで、大綱自体としては福島教育長職務代理者から出た意見等々の文言を変更した上でお認めをいただくということで、この場でご確認をいただければと思いますが、策定自体はこれでよろしいでしょうか。

○出席者一同

よろしいです。

○長野市長

ということで、教育大綱の(案)というところを削除して、これで策定ということで、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それから次に議題(2)のその他ですけれども、何かご意見がございましたらよろしくお願ひします。

事務局何かございますか。

○月輪総務課長

事務局から連絡ですが、平成28年度の総合教育会議につきましては、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策について、今後ご意見をいただく場合や緊急に協議の必要が生じた場合等に、総合教育会議を実施したいと考えています。

○長野市長

その他委員の皆様からご意見ございましたらよろしく申し上げます。

○出席者一同

大丈夫です。

○長野市長

では、私から1点だけ。エアコンの設置についてです。議会でもかなり議論がありました。1番の問題は、予算がかかりすぎるのではないかとということです。

財源については、国の交付金の申請というような話も議会で指摘されたのですが、今、全国的に見て小中学校のエアコン設置率は大体35%~40%ぐらいまで進んでいます。交付金の決定を待とうとすれば、おそらく5年、6年、7年とか何回もチャレンジをしないと。豊後高田市は今年1校だけ認められたのでしたかね。

○湊教育参事

豊後高田市は全部認められました。

○長野市長

5回目、6回目の挑戦でしたか、中津が1校。というようなことで、私も国の方針を確認したのですが、このまま交付金を待っていても、設置率が進んでいますので、交付金はおそらく廃止するとか、出さないのではないかと思います。取れるまでやるというのも一つの策なのかもしれませんが、このタイミングを逃すと、おそらく最低でも5年、6年はちょっと無理かなという判断で、今回予算計上させていただいたということです。

予算については、耐震化の予算が20億を少し超えるぐらいで終わって、あらかたハードの整備にかかるお金もとりあえず目処がつかまりましたので、これでやろうという決断をさせていただいたという所です。MAXで年間2億2,3千万円の予算を取っているのですが、一応リースなので、おそらく17、18億円くらいで10年間済むのではないかなと予想をしています。10年間払い終わったら、後はもう電気代だけ、いわゆるランニングコストしかかからないということです。17、18億円の中には電気代や維持費代、保険代等、壊れたら無料で取り換えてもらえることも全て入っていますので、ご理解をいただければと思っています。

例えば、今年は474億円の一般会計ですので、10年間で4700億円くらいのお金になります。そのうちの17億円くらいを子ども達のために施設整備で掛けられないのだったら、教育が大事だとか、施設整備をしなければいけないとか、教育環境について言えないと個人的には思います。

子どもの貧困の問題とかいうのも、当然、取り組むべき問題で、これをやったからあれはやらないとかいうことではありません。どこで辛抱して、どこに予算を掛けるのかというのが私たち予算を組む人間としては妙技といえますか、自分たちの能力を

試される場所だと思っていますので、これは学校の子ども達のためにもやってあげたいし、学校は避難をする場所としても指定されていますので、もしも災害があったときなどは、そこに一般の方々も避難するわけですし、そういう面でもいいのではないかというご意見を議会でもいただき、予算もいただいたので、丁寧に進めていきたいと思っています。皆様方のご理解をよろしくお願いいたします。

○出席者一同

よろしくお願いいたします。

○長野市長

それではこれで議事が終わりましたので、事務局にお返ししたいと思います。
ご協力ありがとうございました。

○本田参事

ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、平成27年度第2回別府市総合教育会議を締めさせていただきます。

本日はご参加いただき誠にありがとうございました。